

第11回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

| | |
|-------|-------------------------------|
| ◇実施日時 | 2024年2月6日(火) 19時~21時 |
| ◇方法 | ZOOMによるオンライン開催 |
| ◇参加者数 | 34名 |
| ◇内容 | 学習指導案・カリキュラムマネジメント案の相互検討、実践報告 |

○学習指導案・カリキュラムマネジメント案の相互検討

【ルーム1】ファシリテーター：大西浩明

1) 藤岡晃弘先生(奈良市立三碓小学校) 小学校5年 総合的な学習の時間

「わたしたちの住む三碓のたからものなんだろう ~見つけよう!三碓遺産~」

世界遺産について知る 登録基準について知る

→ どのような理由で世界遺産に登録されたかを調べ、自分たちの言葉で説明する

「古都奈良の文化財」について調べ、現地学習 ボランティアガイドの方へインタビュー

「たからもの」について見つける 共有

→ 自分たちの地域に目を向け、三碓遺産を見つめよう

登録基準について話し合う(ヒト・モノ・行事・景色)

三碓遺産認定委員会で話し合う スライド作成して発信

国語(表現方法の学習)、道徳(受け継がれてきた伝統文化の学習)

これまで目を向けてこなかった地域のヒト・モノ・コトに関心が広がってきた

「自分にとって」から「地域にとって」という視点になってきた

意見交流から

- ・「聞いて 聞いて 聞いてみよう」(国語)、産業学習(社会科)ともつながっていると思う。
- ・「いいものを見つけよう」という視点で地域を見ているのが地域への誇りにつながる。
- ・基準を決めるときが大事。なぜこの基準なのかについて考えるときの様子は?
→ 各自が考えた基準を「みんなが納得できる」基準にまで話し合って高めていった。
- ・それぞれ価値観が違う中で、子どもの中でも折り合いをつけていく必要もあるのでは?
→ みんなが知っていて、残していきたいとみんなが思えるものに限って決めていった。
先に基準を決めてしまうのではなく、まずは見つけてきたものを大事にした。
- ・学年だけでなく、学校全体に呼びかけて遺産を考えていく方向もあると思う。

2) 橋口和真先生(屋久島町立八幡小学校)

小学校3・4年 総合的な学習の時間「自然を守る取組を考え、実践・発信しよう」

大単元「発見!発信!屋久島の自然」の第3小単元にあたる

第1小単元「屋久島の海の自然について調べよう」(海のレンジャー体験)

第2小単元「屋久島の山の自然について調べよう」(山のレンジャー体験)

子どもレンジャーとして屋久島の自然を守るために自分たちにできることを考え実践する
どうしたら自然を守れるかSWOT分析 課題設定 取組の具体化・実践

→ 成果と課題の分析 裏山のヤクタネゴヨウ(絶滅危惧種)の保全活動について見学し、知る

屋久島町 ESD ウィークなどで発信 新3年生に引き継ぐ

1年間を通しての学習なので、学びの連続性を意識している

教科・領域との関連は、内容面と方法面に分けて記述した 「使えるストーリーマップ」に

価値の判断基準が増えるように たくさんの「ものさし」を持ち、使いこなせるように

意見交流から

- ・複式学級で、3年生でやったことをさらに4年生でやるときの工夫は？
 - 3年…屋久島の自然の基礎知識の洗い出し
 - 4年…昨年度の学習の成果と課題の整理 「もう1回やりたい！」
- ・ESDで育てたい資質・能力をストーリーマップの中でどのようにつないでいけばよいか？
 - 教科の方にも明示した方が分かりやすいかもしれない。
- ・メタ認知を養うには対話を多くする必要があると思うので、それが分かるマップにしたらさらいよい。
- ・2年間同じ学習をする価値は？
 - 2年間かけてやっと分かってきたというところがある。(やり切れていないところもある)
- ・SWOT分析について詳しく教えてほしい。
 - 強み (strong)、弱み (weakness) と、もともとあった内的なものとの外的な要因とを4つの指標に書き込んで分析していく。

【ルーム2】ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

1) 井阪愛子先生（平群町立平群中学校）

中学校3年 総合的な学習の時間「修学旅行を機会とした平和学習」

- ・平群中学校の学校教育目標
人権尊重の精神を中核とし、主体的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成
- ・平群中学校の「探究」と「探求」
探究 課題をよりよく解決する学習を通して自己の生き方に迫る
探求 自己の生き方についての考えを深め、道徳科へと学びをつなぐ
問題を「わがごと化」し、探究しつつ、SDGsとの関連に気づかせる
- ・生徒の状況
 - ①問題があることは認識できるが、他人事であり「わがごと化」できていない。そのため、自らの課題としてとらえきれない。
 - ②被援助志向性が低く、helpが出せない。特に教員には出せない傾向。
全国平均:66.4% 平群中:約50%
わかるまで教えてくれる 全国88.9% 平群中:約80%
- ・教員の状況
学校の課題意識:不登校の解消:家庭状況を不登校の原因に考えがち
目の前の子どもに注力できているか疑問。子どもについて話し合う教師集団が必要
- ・単元の背景
沖縄戦の同世代の若者たちのことを「わがごと」として考えることで、自分の生き方について考える生徒を育てたい。
政府が戦争した理由はわかるが、国民はどう思っていたのだろうか？
ひめゆり学徒隊とふじ学徒隊のその後の比較から、自分の人生を考える人に。

- ・修学旅行後、文化祭での発信・学びを後輩につなぐ意識から、道德教育・ESDの価値観「人権・文化を大切に」へと展開していく。

意見交流から

- ・子どもに何を求めるのか？

ロシアーウクライナ、イスラエルーガザの状況を目の当たりにする今、「我々が選択して平和な世界を構築することが可能なのか」が問われている。相手を理解しようとする心（共感力）の育成が重要だ。自分自身で責任をもって自らの行動を選択する人になってほしい。

- ・わがごと化について

わがごと化するためには、自分の生活を見つめ直すなど、自分の方に矢印を向けた方がいいのではないか。答えのない問いについて、考え続ける態度が重要だと思う。

- ・戦争のこわさはわかるが、自分の生活とはかけ離れており、わがごと化は難しい。

平和をおびやかすものごとは戦争だけではない。日常を変えさせてしまう出来事にどんなものがあるかを考え、それに対する行動化を促す。

- ・6月23日の沖縄慰霊の日に絵本『へいわってすてきだね』の読み聞かせ

平和とは「あたり前」のこと。あたりまえの日々の大切さに気付かせ、平和を大切にする心情を養い、行動化を促す。

2) 森崎史郎先生（熊本市立天明中学校） 中学校1年 理科「活着ている地球」

単元展開の概要

地震のメカニズムについて学ぶ

プレートテクトニクス → 熊本地震など過去の災害に着目

→ これからも、自然災害の可能性があることが分かる

天明地区の防災体制は十分なのか？熊本県の防災体制は十分なのか？

津波対策 液状化対策 河川氾濫による水害

- ・行政の対応ばかりではなく、自分たち中学生にできることを考える
- ・地球のめぐみにも目を向ける 火山・温泉・美しい景観

意見交流から

- ・理科だけで学習を展開することについて

全4時間では厳しい。総合的な学習につなげたり、避難訓練などの学校行事（特別活動）の時間に学びの成果を全校に発表したりなどしてはどうか

- ・火山による影響のプラス面にも目を向けることは重要。

土壌分析などを行い、火山灰による農業への影響を多面的に考える。

- ・地震など自然をコントロールすることはできないことを学びつつ、ただ怖がるのではなく、大地の恵みについて考えたり、災害に備えたり、災害発生時のシミュレーションを行うことで、安心感を醸成することができるのではないか。

○実践報告

大島英樹先生（福岡市立香椎小学校）

小学校3年 総合的な学習の時間「つたえよう！ えいようまんてん大豆パワー」

地域のことは「好き」 主体的に学習に取り組む態度、表現力に課題 食べ物の好き嫌が多い

「すがたを変える大豆」(国語)、「植物の育ち方」(理科)の学習

大豆の食品についてもっとくわしく調べよう → 家庭で1週間調べてみる 給食の成分表

→ 調べてみたいこと・チャレンジしてみたいこと

・大豆の栄養って? ・豆腐をつくってみたい ・味噌を作っている人に話を聞きたい

校区に豆腐、醤油、味噌を作っている人がいる

○味噌の工場見学

○醤油の作り方を体験

○豆腐工場のオンライン見学 → 自分たちで豆腐作りにチャレンジ(うまくできなかった)

作っている人はすごいなあ! 大変なんだなあ!

○きなこ、もやし、納豆も作ってみたい → すべて体験

↓ 伝えたい

大豆フェスティバルをしよう

アレンジレシピをつくりたい(調理方法や味付けについて知りたい) 地域の方や調理員さんに聞く

とうふのアレンジレシピをつくるために身近な人にインタビュー

とうふココア、とうふもち、パンケーキなど、様々なアイデアを出す

専門家や友達にアドバイスをもらったりした

↓

スライド、劇、紙芝居、パンフレット、試食会などで伝える

主体的な活動はできたが、どこまで自分事化できたか 3年生の経験値では難しいところも

意見交流から

・学習して子どもの変容は?

→ 給食を大事に食べようとする姿が見られるようになった。

・今は自分事になっていなくても、家庭で新たなレシピをつくるなど今後につながっていけばいいのではないか。

・「自分事にさせなければ」ではないと思う。実践を聞いている範囲では、子ども自身がピンときていないだけで、3年生なりの自分事にはなっているのではないかと感じた。

・学校全体に発信することで全体の残食が減るなど、発信する意味が出てくると思う。

・表現力を高めるための工夫は?

→ 国語、理科など他の教科において連携して、相手を意識して工夫できるよう指導を重ねた。

子ども自身の「伝えたい」「教えたい」という思いを大切に、「だれに?」を明確にさせた

・子どもの意欲づけの工夫は?

→ やりたいことができる学校の風土がある。子どもがそれに乗っかっている。

・食物アレルギーなどの配慮は?

→ 幸い学年の中には一人もいなかったが、今後するならばいちばん配慮していく必要はある。

・食の大事さ、ありがたさを実感できるいい実践だと思う。大豆という実はものすごく身近なもののすごさが3年生なりに理解できたのではないか。